

SARU MONOGATARI

サル物語

高崎山のアイドル

～シャーロットちゃんとピーちゃんの恋～

高崎山のサルたちに恋の季節が到来しました。みんな顔やお尻を真っ赤にして相手を探しています。

C群のシャーロットちゃんにも初恋の到来です。5才になり、ほのかに顔とお尻は赤く色づき、お尻は初恋の証である膨らみが見られます。しかし、まだシャーロットちゃんの気に入るオスはいない様子です。

どんなオスを捜しているのでしょうか。ただ、残念ながらサルの初恋はほとんど実りません。オスたちは若いメスに興味湧きにくいのです。

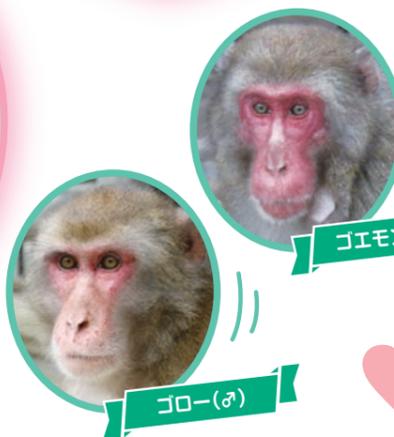
恋の季節は3月頃まで続きます。シャーロットちゃんにも良いお相手が見つかることを祈るばかりです。



シャーロットちゃん



ピーちゃん



ゴエモン(♂)

ゴロー(♂)

対して、B群のピーちゃんにはモテ期が到来しています。ピーちゃんは恋をするだろうと予想はしていましたが、B群のゴエモンやゴローをはじめとしたオスたちから想像以上に恋のアプローチを受けています。オスサルの求愛は相手に咬みついて行う事が多いため、モテルピーちゃんは見かける度に顔などにケガ(求愛をうけた後)が増えていきます。まだピーちゃんが気に入るような相手は見つかっていないようですが…。

高崎山のアイドルたちの恋を見ているとサル世界はモテてもモテなくても大変なようです。

MT Takasakiyama C Member's Club

[高崎山メンバーズクラブ] 会報



国立公園

高崎山
自然動物園

2021.冬号

No.101

ご意見・ご要望をおまちしています。



国立公園
高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500

E-mail / info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/



写真募集中!!

皆さんの撮影したステキなお写真で会報誌の表紙を飾ってみませんか。なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

★大分市内の小学生・中学生は入園料無料です。学生証などを見せて入園してください。

写真提供:高崎山メンバーズクラブ会員/牧久美子様

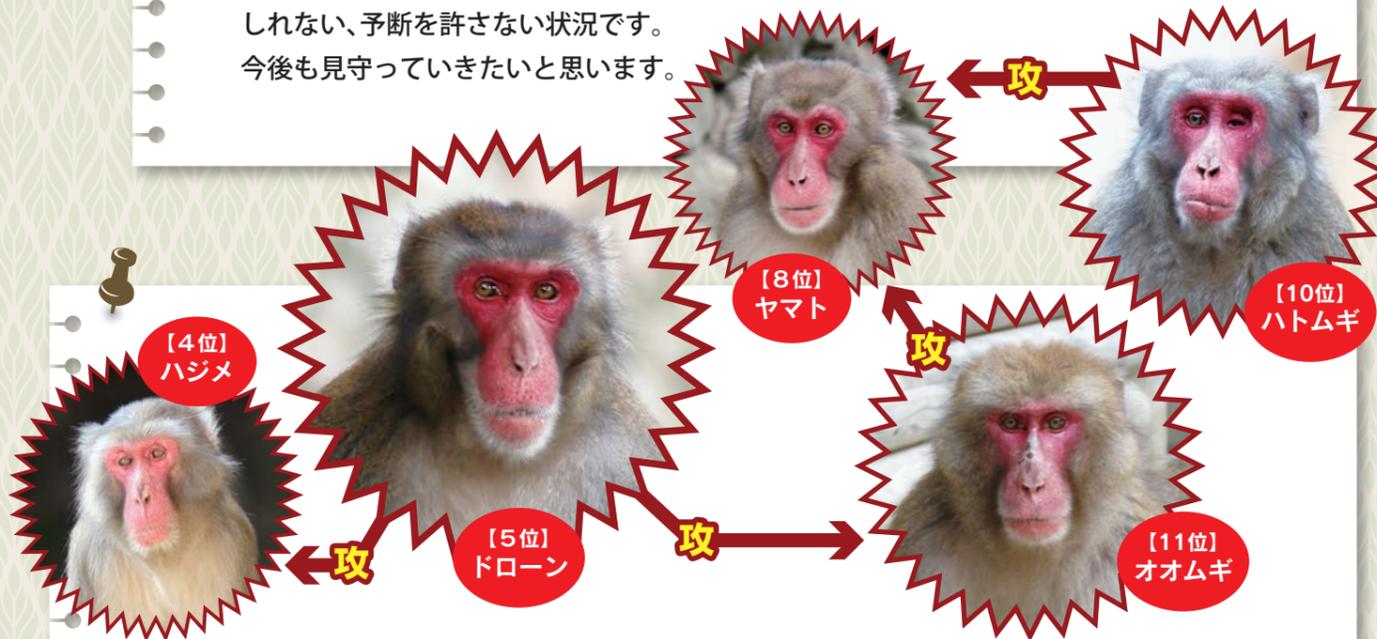
オスたちの 熱き戦い!

高崎山の2群で生活しているオスザル達には厳しいルールがあります。その1番大きなルールが群れに所属した順に序列が構成され、ケンカなどすることなく上下関係が入れ替わることもないことです。ところが最近、そのルールを無視したケースが2例ありましたのでご紹介します。

まず1例目、2020年11月13日、B群内において理由は不明ですが11位の「オオムギ」が8位の「ヤマト」に対して攻撃をしたのです。

翌週になると、その行為はとどまることなく10位の「ハトムギ」も加わりオオムギと一緒にヤマトを攻撃したのです。2頭から攻撃を受けたヤマトは逃げるしかなく劣勢に立たされていました。しかし、5位の「ドローン」が11位のオオムギを攻撃するようになり、ヤマトはドローンを頼っていくようになりました。

12月になり落ち着いてはきましたが、再びオオムギ、ハトムギがヤマトを攻撃するかもしれない、予断を許さない状況です。今後も見守っていききたいと思います。



2例目が同じくB群内で4位「ハジメ」(高崎山では最高齢の35才)に対して5位の「ドローン」が見下したような態度を取っていることです。通常4位のハジメがエサを拾っているところに5位のドローンがやってくることはないのですが、ドローンは自分の方が上だと言わんばかりに4位のハジメを押しつけてエサを食べるのです。ハジメは年齢的にも体力的にもドローンには敵わないと思っているのでしょう。2頭のみ時は何も言わないのですが、1位から3位のオスがハジメの近くにいる時はドローンに対して上位のオスの力を借りながら文句を言い続けています。

その光景が毎日のように繰り返されているので、ハジメには気の毒ですが、見ていて面白い面があります。文句を言われた方のドローンは最高齢のハジメに対して子ども扱いしていて全く動じません。こちらも引き続き見ていきたいと思います。

報告

第50回 高崎山生息ニホンザル 個体数調査

毎年、市民ボランティアとスタッフが山に入りザルの頭数を数える「個体数調査」ですが、今回はコロナ禍の中にもかかわらず、多くのボランティアの方々に研修から調査まで御協力いただき、無事に調査を終えることができました。

例年は、カウントするまでの調査の待ち時間などは控室に入っていたりもしますが、今回は常に外...3密を避けるための努力が様々なタイミングで必要となりました。運よく連日天候も良好で、天が見方をしてくれた調査でした。



調査自体はサル寄せ場ではなく、B群C群共に山中で実施するため、調査開始まではマスクをしての行動ですが、一旦山中の配置に着けば3密は回避されるのでマスクも外せて、森林浴ができます。常にマスクをしないとイケない現代、『マスクを外しても大丈夫。』という、ささやかな喜びを感じることができました。

期間中はサル達の動きに時間を合わせるため、早朝からの調査になります。日によってはサルが山から下りて来ない日もあるため、調査ができない場合もあつたりします。毎日「サル来るかなあ?」と心配しながらドキドキの期間を過ごします。今年も毎日がドキドキでした。

ボランティアの方々は、毎年来られる顔なじみの方も多くいますが、昨年から新規に参加する方が少しずつ増えています。初めはサルを見ても、どれもこれも同じ様に見えますが、目が慣れてくると違いが分かるようになるという不思議な感覚を味わうことができます。興味がある方、是非次回の調査に参加されてみませんか?

第50回という記念すべき調査に参加していただいたボランティアの方々に感謝と共に、これまでの調査を含め、高崎山を支えている多くの関係機関の方々にも感謝しながら、50回目の記念すべき「個体数調査」を終えることが出来たことをご報告させていただきます。

調査
結果

B群677頭 C群362頭 合計1,039頭



ボランティアと協力して山中で調査

